

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	橋毎の 診断	部材毎の診断												備考		
													上部構造						下部構造		支承部		その他				
													主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類		判定 区分	変状の種類
													判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類									
1	1	1	竹原線	一致橋	2径間連結PCホストテンション方式中空床版橋	2007	65.0	10.3	一ツ瀬川	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	ひびわれ	I	—	Ⅱ	—	I	—	I	—	Ⅱ	土砂詰まり	その他:伸縮装置		
所見	主桁及び床版において錆汁を伴う遊離石灰が確認出来ることから、腐食の進行を抑制する予防保全としての対策を行う必要がある。なぜなら、主桁連結部の床版接続箇所及び主桁と床版の接続箇所から鉄筋の腐食に伴う錆汁が混ざった遊離石灰が見つけられる。このようなことから既に内部鉄筋は腐食している可能性が高く、今後、更に進展した場合には、連結桁としての構造特性が低下する可能性が高い。その他の部材としては、伸縮装置部に異物が点在しており、伸縮機能への影響が懸念される為、維持管理対応を行うのが望ましい。																										
2	1	1	竹原線	春之瀬橋	プレキャストボックスカルバート	2003	2.4	15.5	水路	有	その他	Ⅰ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	—	—	—	—	Ⅱ	漏水	—	—	I	舗装の異常	その他:舗装		
所見	主桁及び下部構造において軽微な損傷が見受けられるものの、橋毎の診断は健全である。なぜなら、ボックスが縦締めがなされていない為にボックス間の連結が離れ、土砂が混じった漏水・遊離石灰が見られるが、この漏水・遊離石灰に関しては構造体としての損傷程度は小さく軽微である。また、その他の部材については、舗装の異常が見受けられるが軽微な損傷であることから、橋梁全体として次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
3	1	1	竹原線	大王5号橋	PC単純ポストテンション方式T桁橋	1997	17.5	8.4	谷川	有	その他	Ⅰ	I	—	I	遊離石灰	I	床版ひびわれ	I	漏水	I	—	Ⅱ	脱落	その他:防護柵		
所見	防護柵取付ボルトに脱落が見受けられるものの、上・下部構共に軽微な損傷しか見受けられないことから橋毎の診断は健全である。なぜなら、横桁からの遊離石灰および床版でのひびわれに関しては一方向のみの軽微な損傷であり、下部構造での漏水に関しては、構造体への影響は軽微と判断できる。また、その他の部材については、高欄の取付ボルトが脱落していることから、維持管理での対応を行うのが望ましい。																										
4	1	1	竹原線	大王4号橋	2径間単純PCホストテンション方式T桁橋	1999	60.0	8.2	一ツ瀬川	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	その他(土砂堆積)	Ⅱ	遊離石灰	I	鉄筋露出	I	漏水	I	—	Ⅱ	遊離石灰	その他:PC定着部		
所見	主桁側面の土砂堆積は、耐久性確保の観点から、部材の劣化要因排除を目的とする処置を予防保全として行う必要がある。なぜなら、主桁側面に斜面からの土砂が落下して堆積している状態であるので、主桁コンクリートの剥離もしくは横荷重への懸念から、構造安全性確保の観点から予防保全として土砂の撤去及び斜面の落石対策を実施する必要がある。また、その他の部材に関しては、PC定着部にてうきおよび遊離石灰が見受けられるが軽微な損傷であり、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
5	1	1	竹原線	大王3号橋	2径間単純PCホストテンション方式T桁橋	2000	45.0	9.2	一ツ瀬川	有	その他	Ⅰ	I	欠損	I	遊離石灰	I	鉄筋露出	I	漏水	I	—	Ⅱ	変形	その他:防護柵		
所見	防護柵の変形は確認出来るが、安全性確保の観点では軽微な損傷であることから、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁での欠損及び横桁からの遊離石灰、更には、床版での鉄筋露出に関しては、それぞれの損傷程度及び進行速度に関しては問題ないと判断できる。しかしながら、進行速度を把握するためにも経過観察は必要となる。また、その他の部材については、防護柵の落石による変形が見受けられることから、車両衝突等への予防的保全としての対策を行うのが望ましい。																										
6	1	1	竹原線	大王2号橋	2径間単純PCホストテンション方式T桁+PC単純中空床版橋	2001	85.0	10.0	一ツ瀬川	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	補修補強材の損傷	I	遊離石灰	I	床版ひびわれ	I	漏水	I	—	Ⅱ	遊離石灰	その他:PC定着部		
所見	橋梁補修が施されているが、補修箇所でのうきが見受けられることから予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。なぜなら、補修部材と既設部材との接着が無い状態では構造体としての機能が果たせない可能性が高いことから、補修部材と既設部材の再接着を実施することが必要である。また、横桁からの遊離石灰および床版ひびわれに関しては一方向のみの軽微な損傷である。また、その他の部材に関しては、PC定着部にてうきおよび遊離石灰が見受けられることから、予防保全としての対策が望まれる。																										
7	1	1	竹原線	大王6号橋	場所打ち門型カルバート	2002	7.2	8.7	発電用導水管	有	その他	Ⅰ	I	ひびわれ	—	—	—	—	I	ひびわれ	—	—	I	舗装の異常	その他:舗装		
所見	頂版でのひびわれ及び側壁でのひびわれは、ひびわれ密度も低く、ひびわれ幅も小さく、橋毎の診断は健全である。なぜなら、頂版でのひびわれおよび側壁でのひびわれに関しては、乾燥収縮によるひびわれと推測でき、漏水や遊離石灰・錆汁等も確認出来ないことから、現状においては軽微な損傷といえる。また、その他の部材に関しては、舗装に亀甲状のひびわれが入っているものの深さは浅く、車両の通行量も少ないことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
8	1	1	竹原線	大王1号橋	PC単純ポストテンション方式T桁橋	2002	34.0	8.6	板谷川	有	その他	Ⅰ	I	—	I	遊離石灰	I	鉄筋露出	I	漏水	I	—	I	路面の凹凸	その他:舗装		
所見	横桁からの遊離石灰および床版での鉄筋露出が見受けられるが軽微な損傷であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、横桁からの遊離石灰は主桁・横桁・間詰めコンクリートの接続部分であり、錆汁等も確認されておらず、床版での鉄筋露出に関しては、施工時の落下物と見られることから軽微な損傷である。また、その他の部材に関しては、路面の軽微な凹凸が確認出来る程度である。このようなことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
10	2	2	横野古川線	亀谷橋	RC2径間単純T桁橋	1963	29.2	4.1	亀谷川	有	その他	Ⅲ	I	ひびわれ	I	—	I	鉄筋露出	I	鉄筋露出	Ⅲ	腐食	Ⅲ	傾斜	その他:親柱		
所見	支承部の腐食については、構造安全性の観点から支承代替等の機能回復を目的とする処置を早期に行う必要がある。なぜなら、数基の支承本体にて肉厚変化を伴う腐食が進行しており、支承としての機能を果たせない状態である。更に、支承のアンカーボルトも腐食により損傷し、地震時に主桁が脱落する可能性がある。また、主桁には鉛直方向のひびわれおよび床版には鉄筋露出が見受けられるが軽微な損傷である。更に、その他の部材に関しては、親柱が倒れていることから第三者被害(転落防止)を抑制するために早急に対応する必要がある。																										
11	2	2	横野古川線	古川橋	鋼単純H形鋼桁+2径間単純鉄桁橋	1963	54.0	4.0	一ツ瀬川	有	その他	Ⅱ	Ⅲ	腐食	I	腐食	Ⅱ	鉄筋露出	Ⅱ	鉄筋露出	Ⅲ	腐食	Ⅱ	腐食	その他:防護柵		
所見	外桁の支点上補剛材及びアンカーボルト腐食については、単一箇所の損傷であるので他への進行を防ぐための予防的措置を行う必要がある。なぜなら、単一箇所ではあるが支承本体にて肉厚変化を伴う腐食が進行しており、支承としての機能を果たせない状態である。更に、支承のアンカーボルトも腐食により損傷し、地震時に主桁が脱落する可能性がある。また、主桁の支点部における垂直補剛材が腐食により欠落していることから、せん断耐力が低下している状態である。更に、床版では床版下面での鉄筋露出が見受けられることから、予防保全としての対応が必要である。																										

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	橋毎の 診断	部材毎の診断												備考		
													上部構造						下部構造		支承部		その他				
													主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類		判定 区分	変状の種類
													判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類									
11	12	3	村所2号線	桐原橋	RC単純床版橋	1972	3.5	9.5	水路	有	その他	I	I	ひびわれ	-	-	-	-	I	漏水	I	劣化	I	路面の凹凸	その他:舗装		
	所見	橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁のひびわれは歩道部に多数見受けられるが、ひびわれ幅も小さく漏水・遊離石灰も見受けられないことから、乾燥収縮により発生したひびわれと推測でき、床版を貫通していないため軽微な損傷といえる。 また、支承部では支承材料が熱および圧力により変形しているが、橋梁本体への影響は軽微であり、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
12	13	3	村所2号線	双子橋	PC単純プレテンション方式中空床版橋	1994	10.8	8.3	広瀬谷川	有	その他	I	I	遊離石灰	I	-	-	-	I	-	I	-	I	ひびわれ	その他:伸縮装置		
	所見	主桁には軽微な遊離石灰が見受けられる程度であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁には錆汁を伴わない軽微な遊離石灰が見受けられる程度であり、伸縮装置の後打ち部でのひびわれが確認出来るが橋梁本体への影響は軽微である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
13	14	4	上米良線	上米良橋	鋼2径間単純H形鋼桁橋	1968	51.0	5.8	一ツ瀬川	有	その他	II	II	欠損	I	-	I	床版ひびわれ	II	ひびわれ	II	欠損	I	変形	その他:対傾構		
	所見	主桁の垂直補剛材欠損、橋脚のひびわれについては、部材の劣化阻止を目的とする処置を耐久性確保の観点から行う必要がある。 なぜなら、主桁中間部の垂直補剛材が下フランジ付近で欠損している状態であることから、ウェブの座屈が懸念される。また、橋脚張出付け根位置でのひびわれは遊離石灰を伴う幅1mmのひびわれとなっていることから何らかの対策が必要と考えられる。床版ひびわれは一方であるので軽微な損傷であり、沓座下面の穴に関しては、支承による圧縮伝達が機能しない可能性がある。																									
14	15	4	上米良線	植田橋	RC単純床版橋	1972	6.2	4.8	寺の谷川	有	その他	II	I	鉄筋露出	-	-	-	-	II	洗掘	I	劣化	II	欠損	その他:袖擁壁		
	所見	橋台及び袖擁壁の基礎部分の洗掘・欠損に関しては、構造安定性確保の観点から予防保全としての対策が必要である。 なぜなら、下部工基礎部分および隣接する袖壁基礎部分が洗掘(欠損)により、支持力低下への懸念があることから、洗掘対策(下部工)及び袖壁復旧(洗掘予防)対策が必要である。また、主桁に関しては鉄筋露出が見受けられるが軽微な損傷である。																									
15	16	4	上米良線	とどろ橋	RC単純床版橋	1973	5.0	4.6	榊之木谷川	有	その他	II	II	鉄筋露出	-	-	-	-	II	欠損	I	劣化	I	舗装の異常	その他:舗装		
	所見	主桁の鉄筋露出、下部構造の欠損については、部材の劣化阻止を目的とする処置を、耐久性確保の観点から行う必要がある。 なぜなら、主桁の鉄筋露出部は床版下面の主鉄筋部の腐食による剥離にて生じた鉄筋露出であり、中性化等による鋼材腐食が進行している可能性も考えられることから、予防保全としての対策が必要である。																									
16	17	4	上米良線	上米良校橋	木製床版簡易吊橋	1994	51.8	3.0	一ツ瀬川	有	その他	II	-	-	I	ひびわれ	II	腐食(腐朽)	I	豆板	-	-	III	破断(素線断線)			
	所見	主索および吊索の腐食による素線断線は、構造性の観点から主構造部材の劣化阻止を目的とする措置を予防保全として行う必要がある。 なぜなら、主索及び吊索は主要な構造部材であり、全体的な腐食も進行し、素線が断線している状況である。しかしながら、断線した本数は全体の数パーセント程度であり、利用状況を踏まえると全体構造としての安定は確保されていると判断できる。また、腐食に関しては全体的に進行していることから、予防保全的対策が必要である。また、地覆角材が腐食により大きな損傷を受けていることから、状況に応じて措置を行う事が望ましい。																									
17	18	4	上米良線	市房橋	RC単純床版橋	1985	5.2	4.6	谷川	有	その他	I	I	鉄筋露出	-	-	-	-	I	欠損	I	劣化	II	路面の凹凸	その他:舗装		
	所見	主要部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁の鉄筋露出は軽微な損傷であり、下部構造の欠損に関しても軽微な損傷である。また、支承部では支承材料が熱および圧力により変形しているが、橋梁本体への影響は軽微である。 その他の部材に関しては、橋台背面の不陸が5cm程度あり、上部構造への衝撃による影響が考えられるので予防保全としての対応が必要である。																									
18	19	6	元米良線	元米良橋	鋼単純下路式鉄桁橋	1979	45.0	6.4	一ツ瀬川	有	その他	I	I	-	I	-	I	遊離石灰	II	洗掘	I	-	I	ひびわれ	その他:地覆		
	所見	橋台基礎部にて小規模な洗掘が見受けられるものの、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、床版の遊離石灰は軽微な損傷である。また、下部構造では基礎部分で若干の洗掘が見受けられる程度であり、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
19	20	7	桐原線	東桐橋	RC単純床版橋	1972	3.1	3.3	谷川	無	その他	I	I	欠損	-	-	-	-	I	-	-	-	I	脱落	その他:防護柵		
	所見	橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁端部のコンクリート部材の劣化に伴う欠損であるが、損傷程度は軽微である。また、防護柵のボルト脱落に関しては維持管理による対応が必要である。																									
20	21	7	桐原線	西桐橋	RC単純床版橋	1972	4.2	3.9	谷川	無	その他	I	I	欠損	-	-	-	-	I	遊離石灰	I	劣化	I	変形	その他:防護柵		
	所見	橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁端部のコンクリート部材の劣化に伴う欠損であるが、損傷程度は軽微である。また、支承部では支承材料が熱および圧力により変形しているが、橋梁本体への影響は軽微である。																									

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	部材毎の診断												備考		
												上部構造						下部構造		支承部		その他				
												主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類		判定 区分	変状の種類
												判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類									
	所見																									
21	22	8	下鶴線	上鈴原橋	RC床版橋	1977	5.0	4.7	河川	有	その他	I	I	ひびわれ	-	-	-	-	I	剥離	I	-	I	変形	その他:防護柵	
	所見	損傷は、RC床版にわずかにひびわれが見られる程度で健全であるが、防護柵に変形を確認した。そのため利用者の安全確保の観点から防護柵の補修を行うことが望ましい。しかし、全体として、橋の機能に支障は生じておらず、構造上も問題ない。																								
22	23	8	下鶴線	下鶴1号橋	ボックスカルバート(1連)	1977	2.0	21.5	河川	有	その他	II	I	剥離	-	-	-	-	II	鉄筋露出	-	-	-	-		
	所見	損傷は、底版に流水による摩耗に伴う鉄筋露出がある。そのため、進行予防を目的とする措置を構造安全性の観点から状況に応じて行うことが望ましい。なぜなら、沢上流から土砂が常に供給され、水流および土石による摩耗が推測されるためである。また、常時、水分に接していれば鉄筋の腐食は予防出来るが水分が枯れて酸素の供給があれば腐食が進行することが予測されるためである。																								
23	24	8	下鶴線	下鶴2号橋	ボックスカルバート(1連)	1988	2.0	13.4	河川	有	その他	II	I	鉄筋露出	-	-	-	-	III	鉄筋露出	-	-	-	-		
	所見	損傷は、底版に流水による摩耗に伴う鉄筋露出があり、その進行予防を目的とする措置を構造安全性の観点から予防保全として行う必要がある。なぜなら、沢上流から土砂が常に供給され、水流および土石による摩耗が推測されるためである。また、下鶴1号橋と異なり損傷の範囲が広く、鉄筋の腐食も確認されたためである。																								
24	25	8	下鶴線	小川内橋	単純H鋼桁橋	1977	20.0	4.9	河川	無	その他	II	II	腐食	I	防食機能の劣化	II	床版ひびわれ	II	ひびわれ	II	腐食	II	路面の凹凸	その他:舗装	
	所見	損傷は、鋼部材に腐食や床版に小規模な鉄筋露出、床版ひびわれが確認出来るものの緊急を要する措置の必要はない。なぜなら、交通量が極めて少なく、現状の床版にみられるひびわれが全体的には0.2mm以下であり、腐食も著しいものではないからである。ただし、パラペット部のひびわれ補修及び計画的な塗装更新が必要である。																								
25	26	9	野地線	藤木橋	RCT桁橋	1966	7.0	4.5	河川	有	その他	II	I	-	I	-	II	うき	II	鉄筋露出	II	防食機能の劣化	I	舗装の異常	その他:舗装	
	所見	損傷は、床版に小規模なうきや下部工に鉄筋露出が見られるものの緊急を要する措置の必要はない。なぜなら、交通量が極めて少なく、現状において構造的に問題のある損傷は確認出来ないためである。しかし状況に応じて補修することが望ましい。																								
26	27	9	野地線	野地橋	RCT桁橋	1966	15.0	4.5	河川	有	その他	II	II	ひびわれ	I	-	II	遊離石灰	I	-	II	腐食	I	防食機能の劣化	その他:伸縮装置	
	所見	損傷は、主桁に幅0.9mmのひびわれがあり、支承の腐食も全箇所に至る。緊急を要する措置の必要はないが構造安全性の観点から状況に応じて補修対策を行うことが望ましい。なぜなら、ひびわれ幅が0.9mmと大きいこと、藤木橋と比較してスパンが2倍近くであり耐荷力不足が懸念されるためである。また、今後、ひびわれの進展(さび汁の有無)に注意が必要である。																								
27	28	9	野地線	山之口橋	RCT桁橋	1967	10.0	4.5	河川	有	その他	I	I	ひびわれ	I	-	I	鉄筋露出	I	剥離	I	-	I	-		
	所見	損傷は、主桁に0.2mmのひびわれ、床版に小規模な鉄筋露出がある程度で概ね健全であり、緊急を要する措置の必要はない。なぜなら、交通量が極めて少なく、主桁・床版ともに目立った損傷は少ないためである。																								
28	30	11	津賀瀬線	樽浦橋	鋼単純板桁橋	1995	14.5	7.7	樽浦谷川	有	その他	I	I	防食機能の劣化	I	-	I	鉄筋露出	I	土砂詰まり	I	破断	I	舗装の異常	その他:舗装	
	所見	各部材での損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁の防食機能の劣化に関しては、影響範囲も小さく軽微な損傷である。また、支承においてはゴム系の保護材に亀裂が見受けられる程度である。更に、その他の部材について、舗装の異常が見受けられるが軽微な損傷であり、次回点検時の損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																								
29	31	12	二畝之谷1号線	向橋	RC単純床版橋	1966	6.0	7.1	河川	有	その他	II	I	遊離石灰	-	-	-	-	I	漏水	II	変形・欠損	II	脱落	その他:防護柵	
	所見	ゴム支承全体が層状に劣化し、上下部構造の荷重の伝達が損なわれていることから、予防保全としての措置を講じるのが望まれる。なぜなら、支承部ではゴム支承にて変形・欠損が確認出来ることから、支承本来の機能が維持できていない状態と考えられることから、予防保全としての対策が必要である。更に、その他の部材である防護柵が車両の衝突による変形及びボルトの脱落が見受けられることから、予防保全としての対策を行う必要がある。また、下部構造に関しては雨水の浸入による漏水が確認出来るが軽微な損傷である。																								
30	32	18	吉村線	吉村橋	RC単純床版橋	1966	7.5	4.8	河川	無	その他	I	I	遊離石灰	-	-	-	-	I	欠損	I	劣化	I	路面の凹凸	その他:舗装	
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁の遊離石灰及び鉄筋露出等は軽微な損傷である。また、下部工の流下物の衝突による欠損も軽微な損傷である。																								

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	部材毎の診断												備考		
												上部構造						下部構造		支承部		その他				
												主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類		判定 区分	変状の種類
												判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類									
	所見																									
31	33	25	下相見線	相見橋	ボックスカルバート(1連)	1966	2.0	3.6	河川	無	その他	I	I	-	-	-	-	-	I	その他(摩 耗)	-	-	-	-		
	所見	損傷は、堅壁に水流による摩耗が見られるものの概ね健全である。しかし、沢上流から土砂が常に供給され、水流および土石による摩耗が進展すると、鉄筋腐食につながるものが予測されるため状況に応じて補修することが望ましい。																								
32	34	26	鷹之巣線	鷹之巣橋	吊橋	1962	74.0	2.2	河川	無	その他	IV	-	-	-	-	IV	腐食	-	-	-	-	IV	腐食	その他:縦桁	
	所見	損傷は、木床版および木縦桁に著しい腐食(腐朽)があり、橋の機能に支障が生じており緊急に措置を講ずべき状態である。木床版は場所によってはいつ抜け落ちてもおかしくない状態であり、利用者の安全確保の観点からの通行止めの措置が必要である。																								
33	35	31	吹野線	寺ノ谷橋	RC単純床版橋	1972	5.8	4.1	寺の谷川	有	その他	I	I	ひびわれ	-	-	-	-	I	-	I	劣化	I	変形	その他:舗装	
	所見	橋毎の診断は健全であるが、主桁補強鋼材については、河川の断面確保の観点から、撤去することが望ましい。なぜなら、大型車用での主桁補強材として設置しているH形鋼が脱落・変形し河積阻害となっている。補強材は現道の耐荷力においては必要ない部材である。その他の部材に関しては、次回点検時の損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																								
34	36	32	横谷線	横谷橋	RC単純床版橋	1967	4.5	6.7	横谷川	有	その他	I	I	遊離石灰	-	-	-	-	I	欠損	I	変形	II	舗装の異 常	その他:舗装	
	所見	主要部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁に見受けられる遊離石灰は軽微な損傷であり、下部構造および支承に見受けられる損傷も軽微である。また、その他の部材に関しては、舗装にて全面的なひびわれが確認出来るが、主桁等への影響も小さいことから、維持管理での対応が望ましい。																								
35	37	35	二畝之谷2号線	二畝の谷橋	RC単純床版橋	1966	7.0	5.8	谷川	無	その他	I	I	-	-	-	-	I	-	I	-	I	舗装の異 常	その他:舗装		
	所見	橋毎の診断は健全である。なぜなら、上部構造・下部構造・支承等の損傷は見受けられないが、その他の部材において、橋台背面部に陥没穴が見受けられることから、次回点検時の損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																								
36	38	36	二畝之谷3号線	向橋	RC単純床版橋	1966	8.0	4.0	谷川	無	その他	I	I	鉄筋露出	-	-	-	-	I	欠損	I	-	II	舗装の異 常	その他:舗装	
	所見	主要部材での損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁に軽微な鉄筋露出および一方方向ひびわれが確認でき、下部構造には流下物による軽微な欠損が見受けられる。その他の部材に関しては、舗装にて全面的なひびわれが確認出来ることから、次回点検時の損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																								
37	39	44	山瀬線	山瀬橋	RC単純床版橋	1977	8.0	8.1	山瀬谷川	有	その他	I	I	欠損	-	-	-	-	I	欠損	I	-	II	変形・欠損	その他:防護柵	
	所見	主要部材での損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁に軽微な欠損および遊離石灰が確認でき、微少な一方方向のひびわれが確認でき、下部構造にはひびわれ・うき・遊離石灰および流下物による軽微な欠損が見受けられる。また、その他の部材に関しては、防護柵が橋梁前後にて脱落していることから、予防的保全としての対策が必要である。しかしながら、旧道敷きで利用が無い状態であることを加味すると、橋梁全体としては損傷ランクIと判断できる。																								
38	40	49	助八重線	助八重橋	単純H鋼桁橋	不明	10.0	4.2	河川	無	その他	II	II	腐食	-	-	II	腐食	I	-	-	-	-	-		
	所見	損傷は、鋼部材の軽微な腐食程度であり緊急を要する措置の必要はない。なぜなら、交通量が極めて少なく、2004年に補修済みであり経年劣化以外の損傷がないためである。ただし、定期的な塗装更新等の維持管理をしていく必要がある。																								
39	41	50	鶴瀬線	松之本橋	PC単純ポストテンション 方式中空床版橋	1985	30.0	5.2	板谷川	無	その他	I	I	鉄筋露出	-	-	I	-	I	漏水	I	-	I	防食機能 の劣化	その他:防護柵	
	所見	各部材での損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。なぜなら、主桁に施工時に設置されたと考えられる主構造部材ではない被り確保用の鉄筋が露出しているのが確認出来る。また、下部構造では伸縮装置からの漏水が確認出来ることから、次回点検時の損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																								
40	42	52	狭上線	中之藪橋	鋼単純H形鋼桁橋	1976	15.0	6.9	縄瀬谷川	無	その他	II	I	腐食	I	腐食	I	欠損	I	遊離石灰	II	腐食	II	その他(土 砂堆積)	その他:舗装	
	所見	支承部の機能障害については、構造的確保の観点から機能回復を目的とする処置を講ずるのが望ましい。なぜなら、本橋は拡幅橋梁であるが、下流側のゴム支承にて層状の劣化が確認出来ることから、旧橋との接合部での不陸が懸念される。また、上部構造及び下部構造は軽微な損傷となっており、その他の部材に関しては、橋面に広範囲の滞水が確認出来るので、今後、床版等での遊離石灰及び鋼材腐食の観点から予防保全としての対応が必要である。																								

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	部材毎の診断													備考			
												上部構造						下部構造		支承部		その他						
												主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分		変状の種類	判定 区分	変状の種類
												判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類											
41	43	54	鮎川原線	鮎川原橋	単純H鋼桁橋	1975	22.0	3.7	河川	無	その他	II	II	腐食	II	腐食	I	床版ひび われ	I	ひびわれ	I	-	I	防食機能 の劣化	その他:防護柵			
	所見	損傷は、主桁・横桁の軽微な腐食程度であり、緊急を要する措置の必要はない。なぜなら、交通量が極めて少なく、有効幅員が3mであり大型車の通行はほとんどない。また、現状の床版にみられるひびわれが0.2mm以下の 一方向のものであり、錆汁なども確認されていないためである。ただし、計画的な塗装更新が必要である。																										
42	44	55	山中線	内中橋	RC単純T桁橋	1943	10.0	4.8	谷川	無	その他	III	III	鉄筋露出	II	遊離石灰	II	漏水・遊離 石灰	II	土砂詰ま り	III	腐食	II	舗装の異 常	その他:舗装			
	所見	主桁の鉄筋露出については、部材の劣化阻止を目的とする処置を、構造安全性の観点から、早期に行う必要がある。 なぜなら、応力の集中する桁中央部で、主鉄筋の断面減少を伴う剥離が確認でき、床版では水切りが無い事による広範囲での遊離石灰および鉄筋露出・うき等が確認出来る。また、その他の部材に関しては、橋台背面での 沈下が確認出来ることから、損傷の進行抑止としての補修対策が必要である。																										
43	45	55	山中線	高原橋	RC単純床版橋	1943	2.0	4.0	谷川	無	その他	I	I	-	-	-	-	-	I	洗掘	I	-	I	-				
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、下部工基礎部にて軽微な洗掘が見受けられる程度である。																										
44	46	55	山中線	山中2号橋	場所打ちボックスカルバート	1943	3.9	3.7	谷川	無	その他	I	I	ひびわれ	-	-	-	-	I	欠損	-	-	I	舗装の異 常	その他:舗装			
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁にt=0.2mm程度の軽微なひびわれが少数確認でき、下部構造では流下物による軽微な欠損および洗掘が確認出来る。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
45	47	55	山中線	山中3号橋	RC単純床版橋	1943	6.6	4.1	谷川	無	その他	I	I	遊離石灰	-	-	-	-	I	洗掘	I	劣化	I	路面の凹 凸	その他:舗装			
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁に軽微な遊離石灰が少数確認でき、下部構造では流下物による軽微な洗掘が確認出来る程度である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
46	49	59	深瀬線	深瀬2号橋	鋼単純H形鋼桁橋	2003	9.0	4.0	谷川	無	その他	II	I	腐食	I	腐食	I	腐食	II	移動・傾斜	I	-	I	路面の凹 凸	その他:舗装			
	所見	下部構造の移動・傾斜については、部材の劣化阻止を目的とする処置を、構造的確保の観点から予防保全として行う必要がある。 なぜなら、橋台前面の擁壁と受け台との離隔が確認出来ることから、前面擁壁の崩壊による安定性に問題があると判断して予防的処置が必要と判断した。また、上部構造・下部構造と共に軽微な腐食が確認出来る程度であ る。																										
47	50	60	八重公民館2号線	八重橋	鋼単純H形鋼桁橋	1967	20.0	4.7	板谷川	有	その他	II	II	腐食	II	腐食	I	漏水・遊離 石灰	I	漏水	II	支承部の 機能障害	I	路面の凹 凸	その他:舗装			
	所見	主桁及び横桁の防食機能の劣化による錆が確認出来ることから、劣化進行抑止の観点から予防保全としての対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁および横桁の防食機能の劣化による錆が確認でき、支承部ではゴム支承が層状の損傷が見受けられる。また、床版では軽微な漏水・遊離石灰が確認出来る。																										
48	51	62	鉢山谷・古川線	1号橋	RC3径間単純床版橋	1972	16.2	4.5	鉢山谷川	有	その他	I	I	剥離	-	-	-	-	II	遊離石灰	I	劣化	II	腐食	その他:防護柵			
	所見	下部構造にて錆汁を伴う遊離石灰が確認出来るものの、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁では配水管周りの軽微なうきおよび剥離が確認出来る程度であり、下部構造では軽微なうきおよび錆汁を伴う遊離石灰が確認出来る程度である。この錆汁を伴う遊離石灰の位置は伸縮継ぎ手位置からの遊 離石灰と考えられることから、橋全体としての損傷程度は低いと判断した。また、その他の部材に関しては、防護柵の腐食および変形・ボルト脱落が見受けられることから、維持管理での対応が必要である。																										
49	52	62	鉢山谷・古川線	1-2号橋	鋼張出床版橋	1973	25.2	2.1	鉢山谷川	有	その他	I	I	-	I	-	I	変形	I	遊離石灰	I	-	I	-				
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、床版での軽微な変形及び下部構造での軽微な遊離石灰およびひびわれが確認出来る程度である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																										
50	53	62	鉢山谷・古川線	2号橋	鋼単純H形鋼桁橋	1975	33.8	5.3	鉢山谷川	有	その他	II	II	腐食	I	防食機能 の劣化	I	床版ひび われ	II	遊離石灰	II	腐食	I	路面の凹 凸	その他:舗装			
	所見	主桁端部での腐食が進行し肉厚変化までは至っていないが、劣化進行抑止としての観点から予防保全としての対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁端部に肉厚変化までは至っていないが、連続的な腐食が進行し、支承部も同様に腐食が進行していることから、劣化進行を抑止するための対策を講じる必要がある。また、下部構造においては錆汁を伴う遊離 石灰が確認出来る。更に、横桁には防食機能の劣化が見受けられ、床版には軽微な一方向ひびわれが確認出来る程度である。																										

平成27年度 点検橋梁一覧表

市町村名 西米良村

NO	自治体 橋梁 管理番号	路線 番号	路線名	橋梁名	橋梁形式	架設年度 (年)	橋長 (m)	幅員 (m)	路下 条件	代替路 有無	緊急 輸送 道路	橋毎の 診断	部材毎の診断												備考		
													上部構造						下部構造		支承部		その他				
													主桁		横桁		床版		判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類		判定 区分	変状の種類
													判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類									
51	55	62	鉢山谷・古川線	鉢山谷橋	鋼単純桁橋	1978	33.6	5.8	鉢山谷川	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	その他(座屈)	I	腐食	I	床版ひびわれ	Ⅱ	漏水	Ⅱ	腐食	Ⅱ	変形	その他:防護柵		
	所見	曲線部の外桁部にて、座屈による主桁ウェブの変形が確認出来ることから、予防保全の観点から何らかの措置を講ずる必要がある。 なぜなら、主桁には荷重の偏載による座屈が見受けられ垂直補剛材も設計段階で不足していると思われることから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。また、床版には軽微な一方向ひびわれが確認でき、下部構造では乾燥収縮によるひびわれ及び欠損・遊離石灰が確認出来る。その他の部材に関しては、防護柵にて衝突による変形が確認出来る。																				接続ボルトにF11Tを使用している事から、遅れ破断に対する対策として取替が必要					
52	56	62	鉢山谷・古川線	徳松橋	RC単純T桁橋	1980	13.0	6.9	徳松谷川	有	その他	Ⅰ	Ⅰ	ひびわれ	I	鉄筋露出	I	鉄筋露出	I	うき	I	—	I	路面の凹凸	その他:舗装		
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、主桁には軽微な乾燥収縮によるひびわれおよび欠損が、横桁および床版に軽微な鉄筋露出およびひびわれが、下部構造では軽微なうき・ひびわれ・遊離石灰・欠損等の軽微な損傷が確認出来る程度である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
53	57	63	一番之久保線	竹之尾橋	RC単純床版橋	1978	6.4	3.8	谷川	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	うき	—	—	—	—	I	うき	I	—	I	うき	その他:地覆		
	所見	主桁のうきおよび鉄筋露出に関しては、主鉄筋の腐食進行を抑制するための措置を予防保全の観点から対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁では主鉄筋の腐食膨張によるうきおよび鉄筋露出が確認出来ることから、劣化進行抑止の観点から断面修復および中性化対策等の予防保全的対応が必要である。下部構造では軽微なうきおよび豆板が確認出来る。																									
54	58	63	一番之久保線	竹之尾2号橋	場所打ちボックスカルバート	2001	6.8	11.6	谷川	有	その他	Ⅰ	Ⅰ	ひびわれ	—	—	—	—	I	ひびわれ	—	—	I	欠損	その他:地覆		
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、頂版でt=0.2mm程度の軽微なひびわれが少数確認でき、下部構造では軽微なひびわれおよび流水によるすり減りが確認出来る程度である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
55	59	64	縄瀬線	山中橋	鋼単純H形鋼桁橋	1973	10.5	4.8	縄瀬谷	無	その他	Ⅰ	Ⅰ	腐食	I	防食機能の劣化	I	遊離石灰	Ⅱ	洗掘	I	腐食	Ⅱ	変形	その他:防護柵		
	所見	橋台基礎部で小規模な洗掘が確認出来るものの、橋毎の診断としては健全である。 なぜなら、主桁では軽微な腐食、横桁では防食機能の劣化が、床版では軽微な一方向ひびわれおよび遊離石灰が、下部構造では軽微な欠損および遊離石灰が確認出来る程度である。また、基礎部で小規模な洗掘が確認出来る。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
56	60	65	竹之元谷線	吐合橋	鋼単純H形鋼桁橋	1973	21.5	4.1	板谷川	無	その他	Ⅱ	Ⅱ	腐食	I	防食機能の劣化	I	床版ひびわれ	Ⅱ	遊離石灰	Ⅱ	腐食	Ⅱ	ひびわれ	その他:袖壁		
	所見	主桁での腐食は肉厚変化までは至っていないが、劣化進行抑止の観点から予防保全としての対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁及び支承での腐食は肉厚変化までは至っていないが、連続的な腐食であることから劣化の進行を抑止するための対策が必要である。また、横桁では軽微な腐食および防食機能の劣化が見受けられる。下部構造では軽微な遊離石灰およびひびわれ・洗掘が確認出来る。その他の部材に関しては、防護柵基礎部の袖擁壁部にひびわれが確認出来る。																				接続ボルトにF11Tを使用している事から、遅れ破断に対する対策として取替が必要					
57	61	66	八重公民館1号線	山瀬橋	PC単純プレテンション方式中空床版橋	2005	11.0	6.4	山瀬谷川	無	その他	Ⅰ	Ⅰ	—	I	—	—	—	I	鉄筋露出	I	欠損	I	路面の凹凸	その他:舗装		
	所見	各部材の損傷は軽微であり、橋毎の診断は健全である。 なぜなら、架設年度も新しく、下部構造に軽微な鉄筋露出・ひびわれ・欠損が確認でき、支承部では施工時に生じたと考えられる軽微な台座コンクリートの欠損が見受けられる程度である。この様なことから、次回点検時での損傷比較による進行度合の確認が望まれる。																									
58	62	73	浜川線	浜川1号橋	RC単純床版橋	不明	2.6	7.2	谷川	有	その他	Ⅲ	Ⅲ	鉄筋露出	—	—	—	—	I	ひびわれ	I	—	Ⅱ	欠損	その他:底版コンクリート		
	所見	主桁の鉄筋露出については、構造安全性の観点から、早期の補修対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁の主鉄筋被りが薄く断面変化を伴う腐食膨張による鉄筋露出・うき・剥離が広範囲に確認でき、主鉄筋は断面減少を伴う腐食が進行していることから、断面修復等の補修対策もしくは補強対策等が必要となる。また、下部構造にはひびわれ・豆板・すり減りが確認出来る。更に、その他の部材に関しては、底版コンクリートの剥離による不陸が確認出来ることから、予防的保全としての対応が必要である。																									
59	63	73	浜川線	浜川2号橋	RC単純床版橋	不明	2.6	7.0	谷川	有	その他	Ⅲ	Ⅲ	鉄筋露出	—	—	—	—	Ⅱ	劣化	—	—	Ⅱ	欠損	その他:袖壁		
	所見	主桁の鉄筋露出については、構造安全性の観点から、早期の補修対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁の主鉄筋被りが薄く断面変化を伴う腐食膨張による鉄筋露出・うき・剥離が広範囲に確認でき、主鉄筋は断面減少を伴う腐食が進行していることから、断面修復等の補修対策もしくは補強対策等が必要となる。また、下部構造にはひびわれ・豆板・すり減りが確認出来る。更に、その他の部材に関しては、飲口袖擁壁の脱落・欠損による不陸が確認出来ることから、予防的保全としての対応が必要である。																									
60	64	74	赤保後線	井戸内橋	RC単純T桁橋	1964	17.0	7.3	井戸内谷	有	その他	Ⅱ	Ⅱ	ひびわれ	Ⅱ	鉄筋露出	I	遊離石灰	Ⅱ	洗掘	Ⅱ	腐食	I	その他(欠損)	その他:排水施設		
	所見	主桁のひびわれ及び鉄筋露出に関しては、耐久性確保の観点から部材の劣化阻止を目的とする対策を行う必要がある。 なぜなら、主桁に複数の応力ひびわれが確認出来るが、旧国道でバイパスが完成してからの現状交通量は少なく過年度からの損傷の進行もないことから、予防保全としての対応としている。下部構造では伸縮装置からの漏水が確認でき、更に、A2側の基礎部にて洗掘が確認出来る。また、支承部では腐食が進行していることから、予防保全としての対応が必要である。																									